

## 第3回検討委員会における委員意見への対応（案）

## 1. 施設の要件に関する意見

発言者	項目	意見	対応の方向性
越村 委員	施設の特 徴 (P8)	既存の建物等を利用する場合の比較 もあるとよい。	既存建物等の活用の検討において整理を 行う。
		今後の土地利用に応じて、新規に建つ ものを利用することも必要だろう。	津波避難ビルとしての活用について検討 する。
佐藤(健) 委員	要 援 護 者 へ の 配 慮 (P15)	仙台市に限らず、既存の避難施設で バリアフリーに対応しているものが あるか。	スロープを設置した避難タワーなど、他都 市の事例について把握している。
佐藤(美) 委員	施設の特 徴 (P8)	新築だと費用は高い。既存施設（岡田 会館）の復旧、増改築を要望する。	既存建物等の活用を中心に検討する。
武田 委員	施設の イメー ジ(P7)	施設イメージを4つ示しているが、4 つ全て作るものなのか。	4つ全てを整備するものではなく、人口等 地域の実情に応じて検討する。
徳永 副委員 長	施設要 件の考 え 方 (P9)	平常時の維持管理に関する検討も必 要になるだろう。	コスト、維持管理主体等について検討す る。
平山 委員	平常時 の 利 用 方 法 (P14)	新浜町内会の集会所が津波で流出し た。図の地域利用の部分はぜひ集会所 を兼ねたものを検討してほしい。	避難施設における地域利用のあり方につ いて検討する。
	用地確 保	施設の用地の確保はどのように考え ているか。希望する場所を買収しても らえるのか、町内会で用意するのか。	市有地等の活用を中心に検討する。
増田 委員	周知、啓 発	避難された方が、どういう行動をとる べきか周知しておいたほうがよい。 (安否確認のための名簿作り等)	避難所の運営等について周知等も含め検 討する。

## 2. 避難道路の考え方に関する意見

発言者	項目	意見	対応の方向性
今村 委員長	道路の使用状況	震災時に道路を使った状況を、この委員会の中か又は関連したところで整理したい。	実際に自動車避難した方に対し、ヒアリング調査等を実施する。 (別紙参照)
	シミュレーションのフロー (P25)	図の3つ目の部分が重要である。シミュレーションの方向性について、3つ目の部分を詳細に検討してほしい。	シミュレーションの条件設定等について検討する。
	シミュレーションの想定	結果が出るには少し時間はかかるが、シミュレーションの想定について説明は必要だろう。 シナリオや条件の案を事務局で作ってほしい。	
小野 委員	道路ネットワーク (P22)	主要避難路は3本、一般市道は幅員6m以上としているが、一般市道は一部かさ上げ道路とつながっていない。また、通行止めの危険性も考えられる。南北方向の道路も迂回路としての設定や拡幅の必要がある。	
越村 委員	シミュレーションの想定	歩道や幅員の考え方、徒歩と自動車の割合など、どの程度考慮してシミュレーションするか整理してほしい。集落全体が車で避難すると逃げ切れないという結果も含めて色々なシナリオを考えてほしい。	シミュレーションの条件設定等について検討する。
		シミュレーションの結果を示し、委員から意見をもらいフィードバックするという作業を何回か経験し、条件や課題を煮詰めていくことが必要である。	第4回委員会以降、シミュレーション結果をお示しし、ご意見をいただく。
		自動車と歩行者は同時に動かしてシミュレーションをするのか。	自動車と歩行者は同時に解析できるが、条件設定等については検討する。
齋藤 委員	シミュレーションの想定	次回委員会までにどの程度のシミュレーションができるのか。自分達も参加してみないと、意見がどこに反映されるのか不安である。	第4回委員会以降、シミュレーション結果をお示しし、ご意見をいただく。

佐藤(健)委員	地震による通行不能対策(P30)	主要避難道路についての考え方とあるが、一般市道も同じように考慮はするのか。最大人口である岡田地区の一般市道が心配である。今回の地震で通行不能にならなかったから大丈夫とはならない。沿道の環境整備（ブロック塀等）への対応が必要。	一般の道路に関しても、地震に強い構造とすることについて、今後検討する。
佐藤(美)委員	道路の使用状況	震災当時、自動車避難した人が歩行者を拾って逃げたという事実もあり、そういった想定も考えてもらいたい。	シミュレーションの条件設定等について検討する。
徳永委員	道路幅員の考え方(P27)	主要避難道路は車だけが避難に使用し、一般市道は車と歩行者がいるという整理になるが、常時での歩道の利用のされ方も合わせて歩道幅員を考える必要がある。場合によっては歩車分離も考える必要がある。	一般市道については、歩車分離が難しい面があるが、常時の利用の状況や、シミュレーションの結果なども踏まえ、検討する。
平山委員	道路幅員のイメージ(P28)	緊急時のみ3車線は反対である。特に南蒲生浄化センター1号線は交通量が多い。	道路整備にあたっては、避難時だけでなく、平常時のことも考慮しながら、総合的に判断し、車線数の設定をしていく必要がある。今回のシミュレーション結果も含め、車線数等については検討する。
増田委員	避難時の道路の役割(P20)	かさ上げ道路は浸水しないと考えて南北に逃げる人がいるか。その場合、かさ上げ道路から降りて西へ逃げる人と錯綜する。何パターンかシミュレーションを考える必要がある。	シミュレーションの条件設定等について検討する。
	道路ネットワーク(P22)	シミュレーションで道路ネットワークはどのレベルまで入れるのか。	主要避難道路のほか、一般市道についてもなるべく詳細なネットワークを組むよう検討する。
	道路幅員の考え方(P27)	自転車について、避難路としてのほかに海岸公園へ向かうサイクリングロードなど、自転車専用レーンの設置についての検討もしてほしい。	避難時については、自転車、一般の歩行者、および高齢者等の速度の異なる避難者の通行を考慮しながら、歩道幅員の考え方を整理していく考えである。 また、避難道路の通常時の利用形態については、自転車の利用状況なども考慮しながら検討する。